

支援だより



平成28年度第5号
平成28年10月7日
神奈川県立中原養護学校
支援連携グループ

今年の夏は厳しい暑さが続きました。2学期に入り、秋の祭典に向けての準備も、着々と進んできていること
と思います。さて、今月の支援だよりは、進路支援係からのコラムや、【発達障害応援キャラバン2016】等
のお知らせが盛り沢山です！ぜひご覧ください！！

イベント等紹介

① 発達障害応援キャラバン2016 主催「川崎市」

～発達障がいを持つ人を支える家族の学びを応援します～

「どうしたらよいかわからない」そんな風に思ったことはありませんか？
キャラバンは障害についての知識や支援体制などを学ぶことができる講座です。
発達障がいの人を支えるあなたを応援し共に生きていくヒントを見つけるキッカケになればと
願います！

キャラバン2016 スケジュール

日時	テーマ・講師	場所
11月24日(木) 10:00～12:00	「自閉症スペクトラムについて」 横浜市中部地域療育センター 所長 高木一江氏	【中原区】300名 中原市民館 大ホール
12月1日(木) 10:00～12:00	「二次障害について」 川崎幸クリニック 臨床心理士 稲富正治氏	【麻生区】150名 麻生区役所 第一会議室
1月26日(木) 10:00～12:00	「保護者に向けて」 フリースペースたまりば 精神保健福祉士 西野博之氏	【高津区】300名 高津市民館 大会議室
2月2日(木) 10:00～12:00	「学習障害について」 帝京大学大学院教職研究科 非常勤講師 平松純子氏	【麻生区】150名 麻生区役所 第一会議室
2月23日(木) 10:00～12:00	「川崎市発達相談支援センターについて」 川崎市発達相談支援センター 所長 阿佐野智昭氏	【中原区】50名 中原市民館 視聴覚室

② かわさき ボランティア タウンフェスタ2016

「かわさき ボランティア タウンフェスタ2016」は川崎市内の福祉に関するボランティア活動を広く市民の皆さまに紹介し、さらにはボランティア同士の交流、つながりの輪を広げることを目的とするイベントです。

今年度は、「災害ボランティア」をテーマに、様々なボランティア活動の実演・体験、日頃の活動を紹介するパネル・作品展示・市内福祉施設の自主製品販売等を行います。

☆日時：平成28年12月18日（日）10：00～16：00

☆会場：川崎市国際交流センター

☆住所：〒211-0033

川崎市木月祇園町2-2 東急東横線・目黒線「元住吉駅」下車徒歩約10分

☆問い合わせ：川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター

電話/fax：044-739-8718/044-739-8739

③ 第43回 国際福祉機器展 ～アジア最大の総合福祉機器展～

世界の福祉機器が集結！17か国1地域から530社が出展します。高齢者・障害者の自立生活を支え、社会参加を促進するために、福祉機器の果たす役割はますます重要なものとなっています。国際シンポジウム、H.C.R.セミナー、出展社プレゼンテーション等の開催し、介護・保健福祉に関わる最新の情報を提供します。

☆日時：2016年10月12日（水）～10月14日（金）10：00～17：00

☆会場：東京ビックサイト 東展示ホール

☆住所：〒135-0063

東京都江東区有明3-11-1

☆お問い合わせ先：<http://www.hcr.or.jp>

※入場の際には無料登録が必要になります。詳しくはHPをご覧ください。

また、一部の講座等は有料になりますのでご注意ください。

④ 横リハ 秋の芸術まつり2016

～今年も開催！あふれる才能、輝く個性・・・！！仲間たちのとっておきの傑作が大集合！～
横浜市総合リハビリテーションセンターや地域療育センターの発達精神科を利用している小学生以上の人たちによる『展覧会』です。

☆日時：10月13日（木）13：00～17：00

10月14日（金）10：00～17：00

10月15日（土）10：00～15：00

☆会場：横浜市総合リハビリテーションセンター 1階ホール

☆住所：〒222-0035

横浜市港北区烏山町1770 JR/市営地下鉄「新横浜駅」から徒歩約10分

☆入場料：無料

☆問い合わせ：横浜市総合リハビリテーションセンター 療育課045-473-0666(代表)

障害のある当事者の お話をきく研修

平成28年11月21日(月) 14:00～16:00

横浜ラポール2階大会議室

お話をしてくれる方

★和田千珠子さん

(旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと
ピアスタッフ)

★山下 賢一さん

(かもめ福祉工房)

■申込み：※ 申込書を申込み先にFAX又は郵送にてご送付ください。

■× 切：11月14日(月)

■定員：100名

※申し込み多数の場合は調整させていただきます。

特に連絡がない時は、当日直接会場にお越しください。

お話の内容

- ・ご自身の暮らし、活動について
- ・こういう関わりをして欲しい、配慮してほしいこと
- ・周りの人へのメッセージ など

会場



■JR 横浜線「新横浜」駅(北口)・横浜市営地下鉄「新横浜」駅(8番出口)から徒歩10分

■新横浜駅(北口)からリフト付き送迎バス(障害者優先)を運行(無料)

※申し込み希望の方は、各ご家庭で申し込みをお願い致します。
申込書は、担任にお知らせいただければ、連絡帳を通してお渡し致します。

コラム

明日が待ち遠しくて眠れない！ドキドキする！明日のことや将来のことを楽しみにしながら眠りにつく子どもを育てたい。

子どもが、学校・地域・家庭生活を充実して生きるために必要な力を育てること、そしてその力を使おうという意欲を育てること、学校や地域を含めた社会の中での「できた、わかった」という体験を様々な場面や人とできるだけ多く積み上げることが大切だと考えています。また、この素晴らしい体験によって、夢をもって生活する子どもが育っていく。すなわち、子どもの成功体験を先延ばしにせず、「今」の「できた、わかった」という経験をするることによって、子どもたちの社会参加は徐々に高まっていくと思います。

○学校と家庭との連携

私が、日本特殊教育学会大会で発表した拙論『知的障害のある生徒に対する移動準備行動への支援～母親への行動コンサルテーション（behavioral consultation）の効果の検証～』より、学校と家庭との連携をした取り組みの事例を紹介させていただきたいと思います。

指導場面は、家庭と学校の二つの場面です。対象の生徒は、自宅では、急いで登校準備をするために、登校途中に忘れ物に気づいてパニックになることがしばしばあり、学校では、授業の準備をすることについて苦手にしていました。それによって学校に来ることが遅れ、学校でも授業時間に遅れるというのがその当時の状況でした。

生徒の社会参加を高めるために、担任は保護者と面談をし、家庭と学校で連携して生徒を支援することにしました。生徒の思いを推定し、おそらく生徒は「忘れ物をしたくない」「ルールがあれば準備ができる」と考えているのでは、という結論になりました。

そこで、家庭では、次のようなルールを作って支援することにしました。①本人が持っていきたいと思っているものの位置を固定する。②保護者が登校の用意についての言葉をかけた後は、登校の用意は極力生徒が行う。③自力での用意が難しい場合は、保護者が生徒の部屋に入って支援をする。

学校では、④本人が持っていくべきものがわかる棚を用意して、移動する前には必ず棚に寄ってもらう。

以上のようなルールで取り組んだところ、自宅から忘れ物をすることなく、時間通りに登校できるようになり、学校では、授業に遅れることが少なくなりました。

その後、家庭と学校で連携し、さらに多様な教員が指導に加わり、信号を横断する練習をしました。結果として生徒は社会に出る前に自分で登校の準備をし、自分の判断で安全に信号を渡って学校に自力で登校できるようになりました。家庭と学校が連携をして支援をすることで、生徒の、「できた、わかった」を経験させることができたと考えています。

進路支援係 伊澤

支援だよりへのご感想、ご質問は

e-mail : nakahara01-sh@pen-kanagawa.ed.jp まで！

中原養護学校ホームページ

[http:// www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/](http://www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/)